

# 令和7年度 藤木小学校経営方針

北九州市立藤木小学校  
校長 春野 克俊

## ○ はじめに

学校の主役＝**子ども** 準主役&プロデューサー＝**先生**

学校は子どものためにあり、子どものよりよい成長のために全職員で組織的、計画的に教育活動を進めていくところである。学校は「こどもまんなか」で、ともにつくる学びの場であることが重要である。

この考え方に立脚し、今年度の学校経営を進めていきたい。

## 1 教育の動向から ～「こどもまんなかで質の高い教育環境」の実現に向けて～

「北九州市こどもまんなか教育プラン」(令和6年8月策定)

学校では、既存の学校観・授業観にとらわれず、知識伝達型の一斉授業から脱却し、こどもまんなかで、主体性を引き出して学び合いを進める場を作る、次代に向けた「学びの転換」が必要である。また、働き方改革などの取組による時間確保とともに、変化を前向きに受け止める姿勢を身に付けることも必要である。教職員同士のつながりを強め「一人にしない」チーム学校の推進と、働き甲斐が生み出される職場環境の構築によって、教職員のウェルビーイングを実現し、変化に対して強靭な学校組織を作り上げる。誰一人取り残すことなく、こどもの意見を踏まえた学校運営こそが個別最適であり、こどもまんなかの学校運営につながる。

ミッション1	全てのこどもにとって「居心地のよい学校」をつくる
ミッション2	こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる
ミッション3	誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める
ミッション4	自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める
ミッション5	地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てる

本市教育プランを踏まえつつ、今後の教育の在り方も見据え、藤木小としての教育の進め方を考える必要がある。

## 2 本校児童の実態から (R6 スクールプランより)

- 友達の様々な考えを聞くことを楽しみ、子ども同士の学び合いができるようになった。
- 自分から進んで挨拶をしている。
- たてわり活動、集会活動などを通し、所属感などを実感できている。
- クラスマッチや体育行事により、楽しみながら運動能力を高めている。
- 中学校からの出前授業や防災教育などにより、成長が見られている。
- 互いのがんばりや良さを認め合う活動、作品展示の継続により、自己肯定感が高まっている。

⇒ 自分の考えを工夫して発表してほしい、学校に行くのが楽しみであってほしい・・・ 藤木小の願い！

### 3 学校教育目標とめざす児童像

#### 自ら考え 心豊かで 自立する子どもの育成

- ・ 自ら学ぶ子ども (まなび)
- ・ 思いやりのある子ども (やさしさ)
- ・ たくましい子ども (たくましく)

自立・・・自分で考えたよ 自分でやってみるよ 自分で 自分たちで よりよい未来を創り出していく

#### 「解決(力)」と「創造(力)」

### 4 めざす学校像

#### ともにつくる 活気ある楽しい学校

##### ＝ 居心地のよい 通うのが楽しくなる学校 ＝

- ・ ともに信頼し合い、励まし合えるような人間関係や集団づくりに努める
- ・ 全ての子どもにとって居心地のよい支持的な風土に支えられた学校を目指す
- ・ 安全と安心の学校 (心の居場所・健やかな体)

##### ＝ 子どもが主人公の学校 ＝

- ・ 子どもが自分で決められるように授業や行事の在り方を工夫し、活躍の場と認める場をつくる
- ・ 振り返りを重視し、価値(ねうち)を感じることができるようにする〈深い学びの実現〉
- ・ 「子ども主語」の主体的な学びをデザイン

#### あいことば

#### 笑顔で 明るく 元気よく ともにつくろう

##### ＝ 地域に開かれた 信頼される学校 ＝

- ・ 学校と地域が相互に交流し合うことができる開かれた学校づくりに努める
- ・ 「生活科・総合的な学習の時間」等を中心に地域の方とのかかわりを大切にする活動を通してシビックプライドの醸成を図る
- ※「小中一貫教育モデル校」「防災・減災推進校」

##### ＝ 学び続ける 働きやすい学校 ＝

- ・ 子どもの話題や良さが飛び交う職員室に
- ・ 一人一人の子どもの可能性を引き出す「学び合う チーム藤木」をともにつくる
- ・ ボトムアップで業務改善を進め、教育環境の充実を図る 〈クリア・シェア・オープンで〉
- ☆子どもと教職員のウェルビーイングを高める

### 5 めざす教職員像

- 愛情と情熱 あふれる教職員
- 子どもと明るく接し、温かい言葉をかけ、子どもの思い・願いを大切にする教職員
- 日々の学びを大切に、一人一人の子どもの可能性を引き出す教職員
- 子どもと遊び、働き、ともに汗する教職員
- 子どもを信じて、任せて、見守り、支援する「自己決定」を促す教職員
- 自己を見つめ、新たなことにチャレンジし、学び続ける教職員

## 6 経営の重点と具体的な方策

### ○学校教育目標の達成に向けた学級経営の充実

- ・「学級の自慢(文化)」をつくる取り組みを工夫する。学級目標を全員で共有化することを大切にしながら、学びとくらしの中で、常に学級目標にたち戻り、めざす子ども像の具現化に努める。

### 【「自ら学ぶ子ども」の育成】

#### ○学ぶ楽しさが実感できる授業の創造 ～「子ども主語」の主体的な学びをデザイン～

- ・「?(はてな)と!(びっくり)」のある授業 ⇨ (自主的 との違い)
- ・「問いとプロセスを重視しながら、主体的に問題解決する力を育てる」ことを目指す授業改善を推進
- ・子どもが任される(「自ら学び・ともに学ぶ」ことのできる)時間の確保により自由度を上げる  
⇒ 「もっと〇〇したい、みんなで〇〇しようよ」を引き出す <学びの転換>
- ・学びをくらしとつなげ、価値が実感できる深い学びをつくる

#### ○研究主題「子どもが主体的・対話的に学び『数学的な見方・考え方』を高める算数科授業の創造(3/3年次)の研究を進め、授業の質の向上と指導力を高めることを通して、学力の向上を図る

#### ○ICT活用の推進 (授業での活用と家庭学習での活用 段階的に) ※デジタルもアナログも(自主学習ノートも)

- ⇒ 教科の見方・考え方を引き出す支援、端末活用、学びが停滞している子への支援により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進め、授業スタイルのスタンダード化を図る

#### ○適切な自己表現力を高める教育機会の確保 チャレンジタイムの計画的な実施、「音読発表会」

### 【「思いやりのある子ども」の育成】

#### ○自主的、実践的な活動を充実し、楽しい学校や学級生活を創造する特別活動の推進

- ・異学年交流の効果的実施(縦割り活動等)、帰りの会等での「友達のよいところ見つけ」、子どもの言葉(思い)を集める「スマイル大作戦(仮称)」「キャッチフレーズ:笑顔で 明るく 元気よく ともにつこう」等、アイデア勝負で

#### ○積極的で組織的な生徒指導、特別支援教育を推進 ⇒ 多様性を包括

- ・生徒指導部会やケース会議等を通じて情報の共有化、共通理解

#### ○温かで豊かな心の育ち、自他ともに尊重し合う人権教育の推進

- ・一人一人のよさを認め、高めるなど個に応じた指導に努める。違いを認め合える人間関係づくり 人権感覚を磨く

### 【「たくましい子ども」の育成】

#### ○自他の生命、体を大切にする健康安全教育の徹底

- ・体育科授業の充実を通して、運動する楽しみを味わわせ、運動する習慣が身に付くようにする。カード、端末活用
- ・養護教諭、栄養教諭との連携を図り、専門性を生かした学習などを工夫し、基本的な生活習慣の形成を図る。

#### ○社会性を高める活動の充実

- ・清掃することの意義や目的を自覚化 古いけれどもいきとどき、美しく整えられた状態をつくり出す努力をする

#### ○地域の中でたくましく生きる子どもの育成

- ・「小中一貫教育モデル校」(「石峯中学校区 9年間の活動プラン」実践 4部会[「防災・減災」「読書推進」「不登校対策」「学力向上、補充学習」グッドプラクティスに学び ボトムアップで ともにつくる たくましい子どもを育てるために先生もたくましく)、「防災・減災推進校」として、地域の中で子どもに力をつける。シビックプライドの醸成

# ☆学校の自律性と子どもと教職員のウェルビーイングを高める☆ 自律自走

↳ (ハピネス との違い)

## 「学び合う チーム藤木」を ともにつくる <クリア・シェア・オープン> で

### <人材育成>

- ・ 自校の課題 (ICT の活用、個別最適な学びと協働的な学び、いじめ・不登校対策、特別支援教育の推進、働き方改革等) を、学調結果やアンケート等で情報収集し、整理・分析を行い、改善がどの段階か、重点ポイントは何かを協議し、クリアにしてPDCAに位置付けて学校改善を図る。 ⇒ スクールプランを全教職員が意識する
- ・ 若年教員の指導力向上について個々の強みや特性等を見極めながら課題を自己決定できるように導く。ミドルリーダーにはメンター制や若年研を通して学校運営、分掌の中で得意なことを生かし若年教員に関わる。「持ち合い授業」「学年での合同学習」等を推進し、日々の実践においても課題を学年会でシェアし、チームで課題の克服を図る。 ⇒ 学び合う教職員集団を目指す
- ・ お互いが「聞いて、助け、任せて、見守る」支援で職場の心理的安全性をつくる。育成指標や教員研修プラットフォームを活用し、体系的に学ぶ。また、開かれた学校づくり(オープン)を目指し、学校の中だけにとどまらず、中学校区、地域、保護者とのかかわりや主体的な研修等を大切に、自校での学びと地域社会から学んだこと、研修等とをつなぐことで、人材の育成を図る。 ⇒ 視野を広げる習慣を

### <業務改善・働き方改革>

- ・ 業務分担の見直し、会議と学級事務、教材研究等の時間の確保、在校時間を意識した働き方、定時退行日、ワークライフバランス 等

### <危機管理>

- ・ 危機管理の「さ・し・す・せ・そ」の実践 一人一人の教職員が高い危機管理意識をもつ 網紀肅正
- ・ 長欠、不登校対策 ・児童の出欠の確認 下校時刻を守る、確認を確実に
- ・ 生徒指導、けが等の「報告、連絡、相談・結果の共有、記録、一つ上の対応」
- ・ 不祥事撲滅

### ○ おわりに

- ◆ 「こどもまんなか」で、子どもとともに学び、生活する姿勢 を忘れないようにしよう
- ◆ 備品管理の徹底を！ (ものを大切にする模範を！ 次に使う人への心遣いを忘れずに！)
- ◆ 電話や来訪者 (保護者、ヘルパー、業者など) への対応は誠意をもって、適切に！ (信頼は出会いと第一印象から)
- ◆ 健康一番。異変に気付いたら、早めの対応を！
- ◆ 明るい職場は活力の源。笑いがある職員室を創っていきましょう！ 藤木小の子どもたちのために！ (優しさと厳しさと)
- ◆ 挑戦意欲をもちましょう！ 新たなことに挑戦することを恐れない。
- ◆ アンテナを高くする。おやっと違和感をもったら、迷わず声に出す ダブルチェック・トリプルチェック
- ◆ 教職員も一人間・一社会人。時間を守ったり、適切な服装をしたり、基本的なことを忘れないように心がける  
市民から信頼される教職員として仕事をしていきましょう **チームの力を信じる**